

Kansai Economic Insight Monthly

2015/11/20

Vol.31 October/November

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ 本レポートの内容は、公益社団法人関西経済連合会『関西経済レポート』と連携しています。

・ レポート公開時期は毎月第3週金曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久（甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長）、林万平・木下祐輔・James Brady（各 APIR 研究員）です。

・ 本編内の中国景気モニターは、APIR 中国経済分析のプロジェクトによるものであり、関西経済分析と連動して定期的に発信します。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
景気の現況	2
関空モニター	8
中国景気モニター	9
主要月次統計	12
Release Calendar	13

要旨

- ✓ 9月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりの上昇も、7-9月期は前期比-0.3%と2期連続のマイナス。生産は減少トレンドにあり、底打ちの時期が見極め辛い。
- ✓ 10月の貿易は、対中輸出が前年比マイナスに転じたこともあり、輸出総額は32カ月ぶりの同マイナス。輸入は2カ月連続の同マイナス。結果、貿易収支は8カ月連続の黒字となり、前年同月から拡大した。
- ✓ 10月の消費者態度指数は2カ月ぶりに改善したが、小幅にとどまる。一方で、景気ウォッチャー調査は4カ月連続の悪化。クリスマス・年末商戦への期待から先行きは上昇。
- ✓ 7月の関西2府4県の現金給与総額は2カ月ぶりのプラス。8月の「関西コア」賃金指数は2カ月連続のプラス。賃金は緩やかな回復基調。
- ✓ 9月の大型小売店販売額は6カ月連続の前年比プラス。
- ✓ 9月の新設住宅着工戸数は微減し、2カ月連続のマイナス。分譲の減少が響いた。10月関西のマンション契約率は2カ月連続で70%を割り込んだ。
- ✓ 9月の有効求人倍率と新規求人倍率はともに上昇。失業率は前月から上昇し、6カ月連続の悪化となったが、新規求職の動きを反映した労働力人口の増加がみられ、雇用情勢は引き続き堅調である。
- ✓ 10月の公共工事請負金額は4カ月連続で2桁の前年比マイナス。9月の建設工事は7カ月ぶりの同マイナス。公共工事の減速もあり、建設工事は停滞している。
- ✓ 10月の関空への訪日外客数は前年比+50.9%と33カ月連続のプラスとなったが、伸びは前月から減速した。8月の関空への訪日外客数は中国と韓国からの客数が2カ月連続で歴史的な水準となった。
- ✓ 10月の製造業購買担当者景況指数は前月比横ばいであるが、3カ月連続で50を下回っている。工業生産の前年比伸びは3カ月連続の減速。一方、社会消費品小売総額の前年比伸びは3カ月連続で幾分加速しているが、昨年通年の伸びを依然下回っている。中国経済への下方圧力はしばらく続こう。

【関西経済のトレンド】

	2014年			2015年									
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
生産	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↘	↗	
貿易	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗
センチメント	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↗
消費	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
住宅	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	
雇用	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	
公共工事	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘
中国	↗	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↗

【鉱工業生産動向】

(1) 関西の生産動向

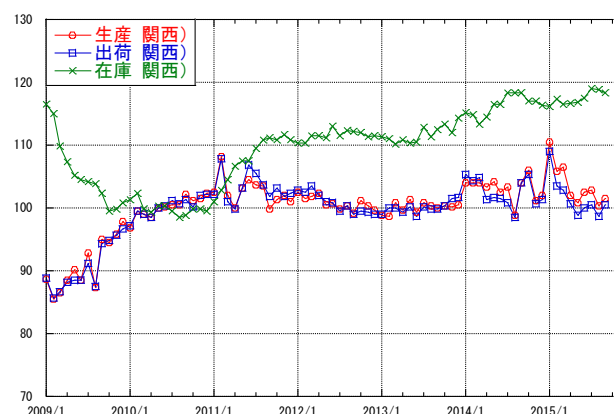
9月の鉱工業指数(速報値：季節調整済)を見ると、生産は101.6で前月比+1.2%、出荷は100.6で同+1.9%、在庫は118.4で同+0.3%といずれも2カ月ぶりの上昇となった。

業種別に生産指数をみると、電気機械(同+11.0%, 2カ月連続)、金属製品(同+15.4%, 2カ月ぶり)、電子部品・デバイス(同+3.9%, 3カ月連続)等が増産となった。一方、情報通信機械(同-13.2%, 2カ月ぶり)、窯業・土石製品(同-3.0%, 2カ月連続)、石油・石炭製品(同-11.6%, 4カ月ぶり)等が減産となった。

足下、生産は増加となったが、これは生産と相関の高い実質輸出がプラス(前月比+1.3%)であったことと整合的である。ただし、7-9月期の生産は前期比-0.3%(4-6月期同-5.4%)と小幅の減産にとどまったが、2期連続のマイナス。

出荷も7-9月期は同+0.1%と微増にとどまった。生産は減少トレンドにあり、底打ちの時期は見極め辛い。

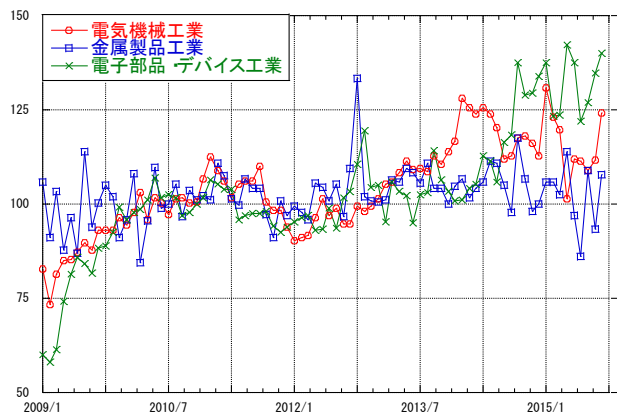
鉱工業指数の推移(関西：2015年9月まで、平成22年=100)



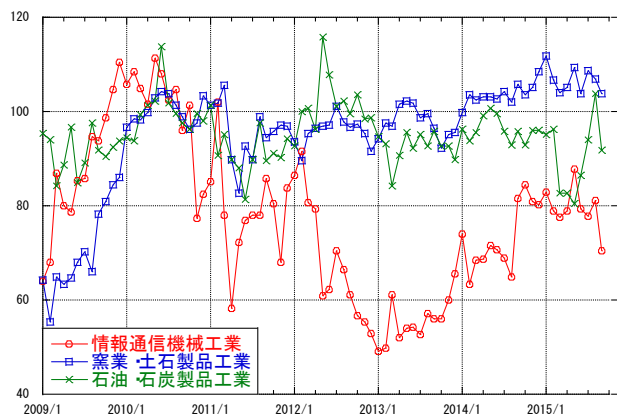
(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

業種別生産指数の推移(関西：2015年9月まで、平成22年=100)



業種別生産指数の推移 (続き)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

(2) 全国の生産動向

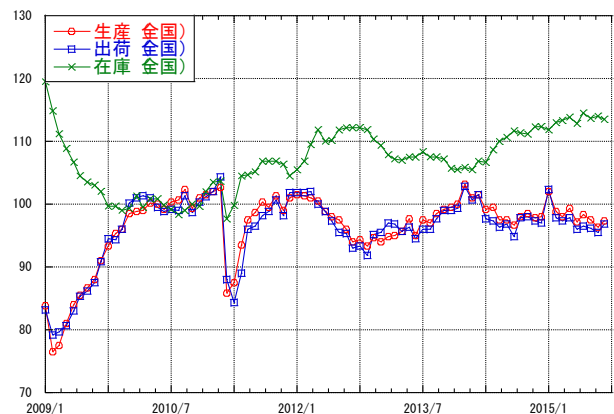
全国における9月の鉱工業生産指数(確報値、季節調整済)は97.4となり前月比+1.1%、出荷は96.8で同+1.4%といずれも3カ月ぶりの上昇。在庫は113.6で同-0.4%と2カ月ぶりの下落となった。

業種別にみると、化学(同+4.3%)、電子部品・デバイス(同+5.9%)、電気機械(同+5.6%)等を中心に増産となった。一方、はん用・生産用・業務用機械(同-4.7%)、窯業・土石製品(同-1.4%)、食料品・たばこ(同-0.6%)等お減産となった。

結果、7-9月期の生産は前期比-1.2%と2期連続の減産となった。ただ、速報の製造工業生産予測調査によれば、10月は同+4.1%の増産、11月は-0.3%の減産となっており、

予想が実現すれば10-12月期の生産動向は緩やかな回復が期待される。

鉱工業指数の推移(全国：2015年9月まで、平成22年=100)



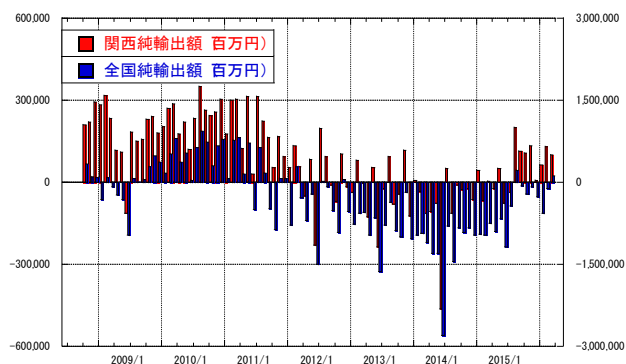
(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、10月関西の貿易収支は+1,011億円と8カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比+4294.3%拡大した。全国の貿易収支(速報値)は+1,115億円と7カ月ぶりの黒字となり、前年同月から+8,532億円改善した。

貿易収支(百万円)：関西(左軸)・全国(右軸)推移(2015年10月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

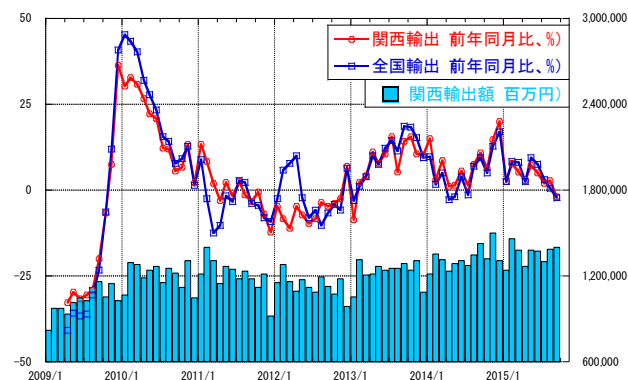
(2) 輸出

関西 10 月の輸出額(速報値)は 1 兆 3,980 億円。前年同月比-1.9%と 32 カ月ぶりの減少。財別に見れば、有機化合物、鉄鋼の輸出が減少した。一方、通信機(単月過去最高額)、半導体等製造装置は増加した。

全国 10 月の輸出額(速報値)は 6 兆 5,440 億円、前年同月比-2.1%と 14 カ月ぶりの減少。財別に見れば、船舶、有機化合物、鉄鋼の輸出が減少した。一方、自動車は増加した。

なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は 119.98 円と前年同月比 10.7%の円安であった。

輸出(右、百万円)・前年同月比(左、%)推移(2015 年 10 月まで)



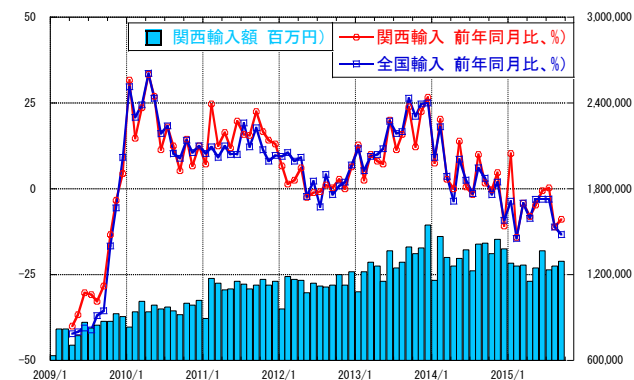
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西 10 月の輸入額(速報値)は 1 兆 2,969 億円、伸びは前年同月比-8.9%と 2 カ月連続の減少。財別に見れば、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガスが減少した。一方、科学光学機器(過去最高額)、医薬品(単月過去最高額)は増加となった。

全国 10 月の輸入額(速報値)は 6 兆 4,325 億円、前年同月比-13.4%と 10 カ月連続の減少。財別に見れば、原油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少している。一方、医薬品は増加となった。

輸入(右、100 万円)・前年同月比(左、%)推移(2015 年 9 月まで)



(出所) 財務省「財務省貿易統計」

(4) 関西の地域別貿易

関西 10 月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア貿易収支は+1,437 億円となり、21 カ月連続の黒字。黒字幅は前年同月比+28.6%と、2 カ月連続で拡大した。輸出は 14 カ月連続で増加(同+0.6%)。財別に見れば、半導体等製造装置、原動機等が増加した。輸入は 2 カ月連続の減少(同-3.2%)。財別に見ると、衣類及び同付属品、鉄鋼等が減少した。

うち、対中貿易収支は-1,216 億円と 44 カ月連続の赤字も、赤字幅は 2 カ月連続で前年同月から縮小した(同-15.8%)。輸出は 2 カ月ぶりに減少(同-2.2%)に転じ、輸入は 2 カ月連続の減少(同-6.2%)となった。

対米貿易収支は+888 億円と黒字基調が続いているが、黒字幅は 14 カ月ぶりに前年から縮小した(同-5.9%)。うち、輸出は 17 カ月連続の増加(同+2.7%)。財別に見れば、原料品、金属加工機械等が増加した。輸入は 3 カ月連続の増加(同+11.0%)であり、財別に見れば、医薬品、半導体等製造装置等が増加した。

対 EU 貿易収支は-171 億円と 2 カ月ぶりの赤字となり、赤字幅は前年同月から+514.1%増加した。うち、輸出は 2 カ月ぶりの減少(同-0.5%)。財別に見れば、遊戯用具、科学光学機器等が減少した。輸入は 2 カ月ぶりの増加(同+9.3%)。財別に見れば、科学光学機器、医薬品等が増加した。

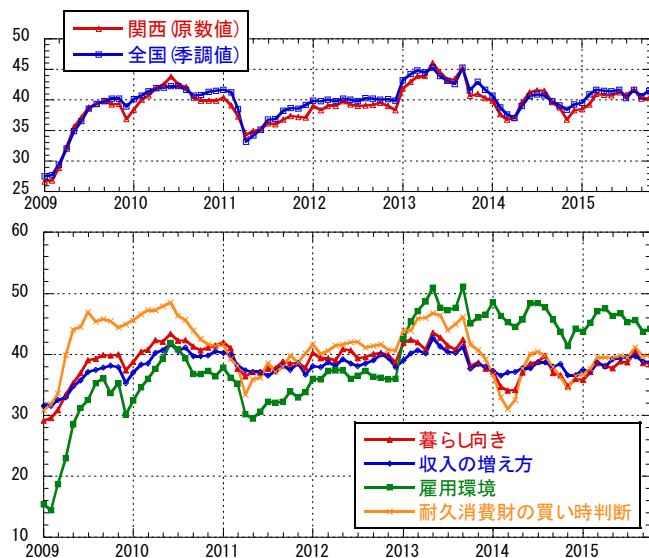
【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西の10月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.1ポイントの40.3と小幅改善。2カ月ぶりのプラス。全国(季節調整値)でも同+0.9ポイントの41.5とこちらも2カ月ぶりの改善。ガソリン価格の下落や食料品の値上がりが一服したことによる。これを受け、内閣府は基調判断を「足踏みがみられる」に3カ月連続で据え置いた。

関西で同指数の構成項目をみると、4つの意識指標のうち、「雇用環境」が同+0.5ポイント、「耐久消費財の買い時判断」が同+0.1ポイントと、いずれも2カ月ぶりの改善。一方、「暮らし向き」は同-0.2ポイント、「収入の増え方」は同-0.1ポイント低下し、いずれも2カ月連続の悪化となった。消費者心理の動きは弱い。

消費者態度指数(2015年10月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

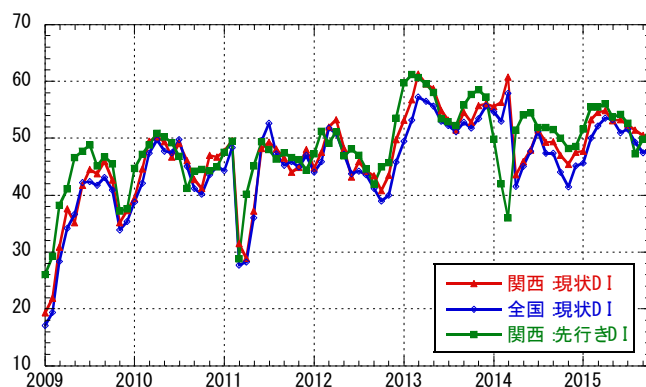
(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の10月の現状判断DIは前月比-0.6ポイント低下の49.9となり、4カ月連続の悪化。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を9カ月ぶりに下回った。スーパーや衣料品専門店を中心とした客足の減少など、消費者の節約志向が悪化

に寄与した。全国は同+0.7ポイント上昇し48.2となり、3カ月ぶりの改善となったものの、50を下回る状況が続いている。

一方、先行き判断DIは、関西では51.4と前月比+1.5ポイント上昇し、2カ月連続の上昇。中国経済減速への懸念はあるものの、クリスマス・年末商戦の盛り上がりに対する期待が先行き見通しを押し上げた。

景気ウォッチャー調査(2015年10月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

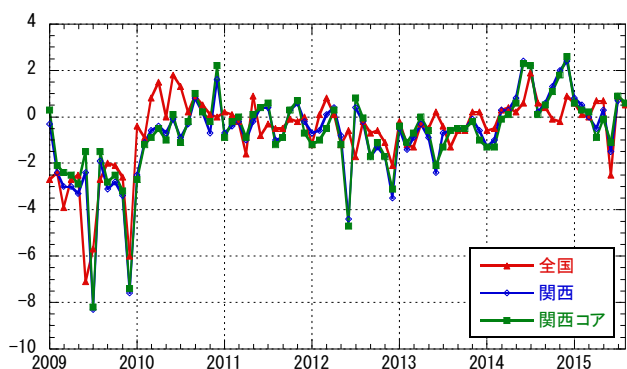
【所得・個人消費・住宅】

(1) 現金給与総額

7月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は37万141円で前年同月比+0.7%と2カ月ぶりのプラス(前月:同-1.5%)。府県別では、京都府が同+4.3%(2カ月ぶり)、和歌山県が同+3.9%(2カ月ぶり)、兵庫県が同+1.8%(2カ月連続)のプラス。一方、滋賀県が同-1.5%(3カ月連続)、奈良県が同-1.0%、大阪府が同-0.3%といずれも2カ月連続のマイナスであった。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった速報性のある「関西コア」賃金指数(APIR推計)は8月に前年同月比+0.6%となり、2カ月連続のプラス(前月:同+0.9%)となったものの、賃金は緩やかな回復基調にある。

現金給与総額(前年同月比 : %, 2015年9月まで)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR 推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(平成23年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

全国(速報値)の現金給与総額をみると、9月は前年同月比+0.6%と3カ月連続のプラス。内訳をみると、所定内給与は同+0.4%と前月(同+0.2%)から若干加速(7カ月連続のプラス)。所定外給与は同+1.4%と3カ月連続の上昇(前月:同+1.6%)。特別給与は同+14.0%と3カ月連続のプラス(前月:同+1.9%)。所定外給与と特別給与の増加が賃金を押し上げた。

現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は同+0.5%と、3カ月連続のプラスとなった。結果、7-9月期の実質賃金は前年同期比+0.4%増加した。

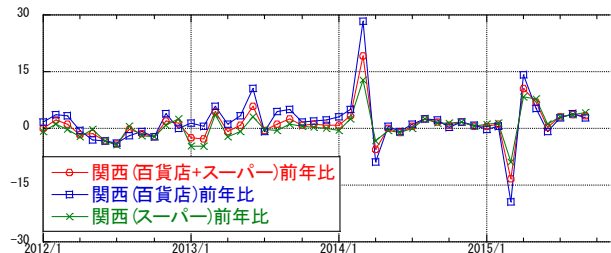
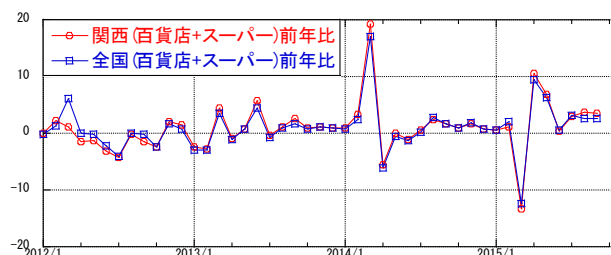
(2) 大型小売店販売額

関西9月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+3.5%と6カ月連続のプラス。百貨店は同+2.7%と3カ月連続のプラス。スーパーは同+4.1%と6カ月連続のプラス。

全国9月の大型小売店販売額(全店ベース)は同+2.6%と6カ月連続のプラスとなっている。

大型小売店販売額は、ここのところ好調を維持している。

大型小売店販売額(前年同月比 : %, 2015年9月まで)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

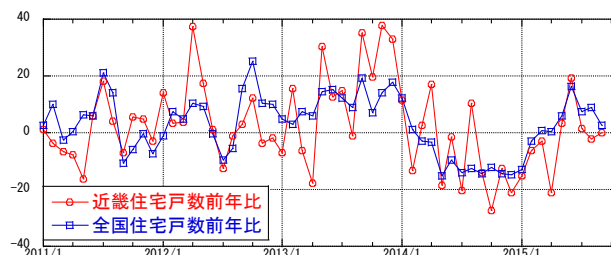
(3) 新設住宅着工の動向

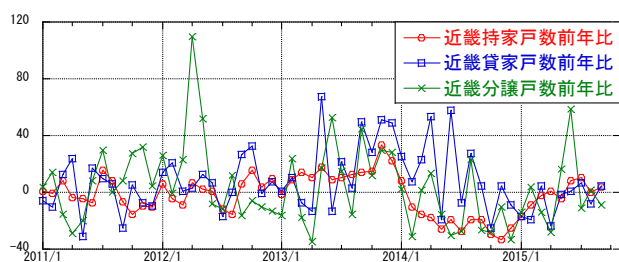
関西9月の新設住宅着工戸数は11,697戸。前年同月比-0.1%微減し、2カ月連続のマイナス。全国は77,872戸と同+2.6%増加し、7カ月連続のプラス。

関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は3,114戸。同+3.6%と2カ月ぶりの増加。貸家は5,191戸、同+4.2%と2カ月ぶりのプラス。分譲は3,375戸、同-8.6%減少し、2カ月ぶりのマイナス。

10月の関西マンション契約率は67.9%(季節調整値、APIR 推計)。好不調の目安となる70%を2カ月連続で下回った。一方、首都圏は79.7%(季節調整値、APIR 推計)と前月から大きく上昇した。

新設住宅着工(前年同月比 : %, 2015年9月まで)





(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

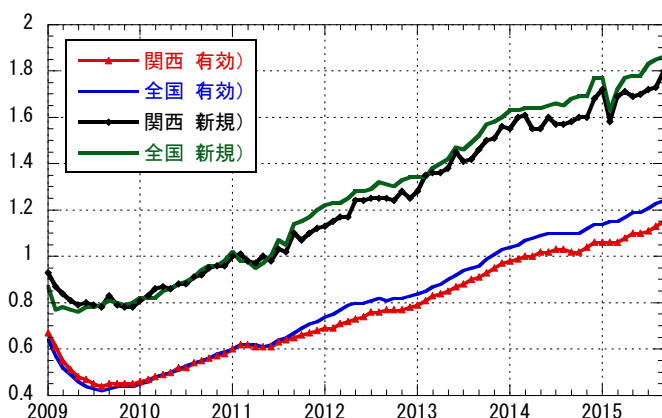
【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

9月の関西の有効求人倍率は、1.15倍で前月比+0.02ポイント上昇し、3カ月連続の上昇。1991年8月(1.15倍)に並ぶ高水準。全国は1.24倍で同+0.01ポイント上昇し、こちらも3カ月連続の上昇。1992年1月(1.25倍)以来の高水準となった。雇用情勢は引き続き堅調である。

府県別では、全ての府県で2カ月連続の1倍台。和歌山県で前月比+0.07ポイント、京都府で同+0.06ポイント、兵庫県は同+0.02ポイント、滋賀県では同+0.01ポイント上昇。一方、大阪府は横ばい、奈良県は同-0.04ポイント低下。

有効求人倍率の推移(季節調整値、2015年9月まで)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(2015年9月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
9月	1.24	1.15	1.07	1.24	1.22	1.02	1.02	1.12
8月	1.23	1.13	1.06	1.18	1.22	1.00	1.06	1.05

9月の関西の新規求人倍率は、1.80倍と前月比+0.07ポイント上昇。全国は1.86倍と同+0.01ポイント上昇した。

大阪府の産業別新規求人数は、宿泊・飲食サービス業で前年同月比-14.9%と3カ月ぶりのマイナス。一方、運輸業・郵便業、教育・学習支援業、医療・福祉、建設業で増加。

(2) 完全失業率の推移

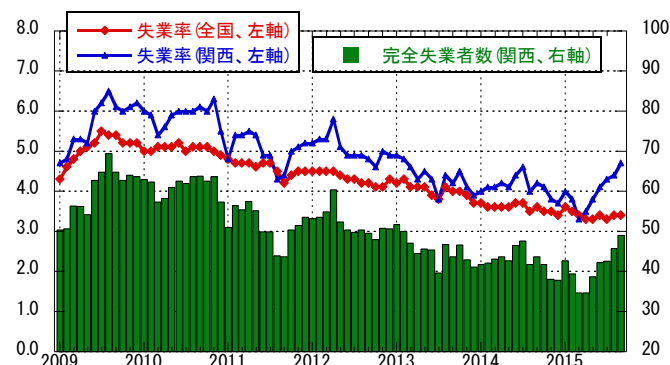
9月の関西の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は4.7%で前月(4.4%)から0.3%ポイント上昇し、6カ月連続の悪化。しかし、労働力人口(季節調整値)が増加しており、新規求職の動きが続いていることが背景にある。

関西の完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は49.0万人で前月(45.7万人)から3.3万人増加した。

全国の完全失業率(季節調整値)は3.4%と前月から横ばい。完全失業者数(季節調整値)は228万人と前月比+4万人増加したが、求職理由別にみると、自発的な離職(自己都合)や新たに就職を行った人が増加しており、より良い条件を求めて労働市場に参入する動きがみられる。

15~64歳の就業率(原数値、全国ベース)をみると、73.9%となり、前年同月比+0.8%ポイント上昇。特に25~34歳の女性で上昇が目立つ。

完全失業率の推移(季節調整値:%,万人、2015年9月まで)



(出所) 総務省「労働力調査」

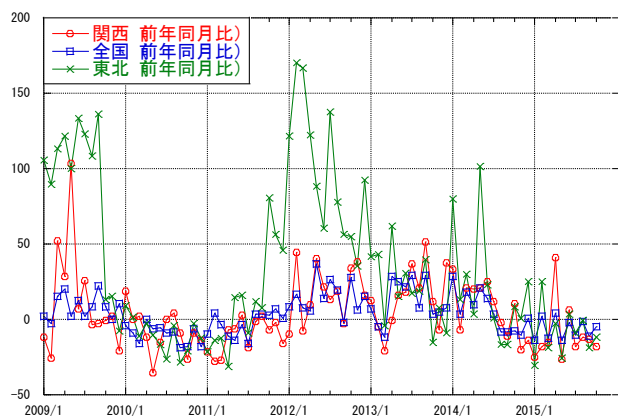
【公共投資】

(1) 公共工事請負金額

関西10月の公共工事請負金額は1,230億円で前年同月比-18.2%と4カ月連続で2桁のマイナスとなり、前月(同-13.4%)から更に減少した。全国は1兆2,530億円で同-4.8%と6カ月連続のマイナス。東北は2,242億円で同-11.6%と4カ月連続のマイナスとなった。

季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に4カ月ぶりに前月から増加となった(関西:同+2.5%、全国:同+3.0%)。

公共工事請負金額(前年同月比:%, 2015年10月まで)



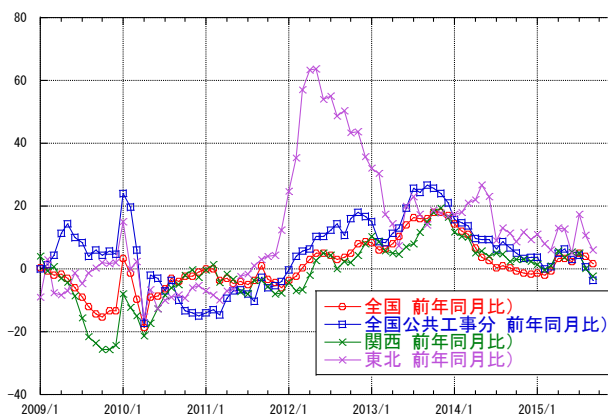
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西9月の建設工事は5,210億円、前年同月比-2.4%と7カ月ぶりに減少に転じた。東北は6,076億円、同+6.2%と50カ月連続の増加。全国は4兆4,028億円となり、同+1.6%と6カ月連続の増加。うち、全国の公共工事は1兆8,657億円で同-3.5%と44カ月ぶりのマイナスとなった。

全国で見れば、公共工事の減速トレンドが本格化してきている。関西の建設工事でもマイナスの伸びに転じた。建設工事は停滞している。

建設工事(前年同月比:%, 2015年9月まで)



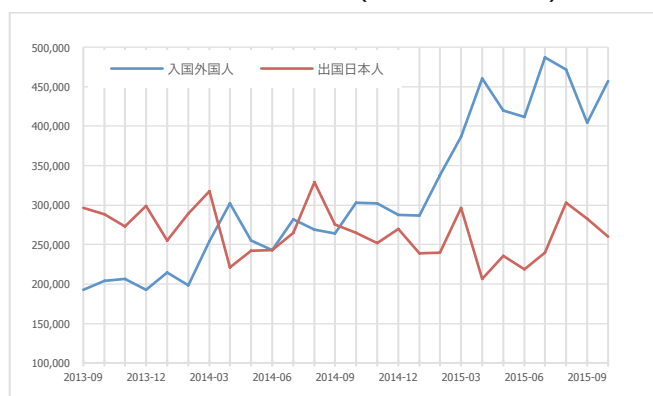
(出所) 国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

10月の関空への訪日外客数は45万7,520人、前年同月比+50.9%と33カ月連続のプラスとなったが、伸びは前月(+53.4%)から減速した。出国日本人数は25万9,880人と同-2.0%の減少となった。先月は21カ月ぶりの増加となったが、再び減少に転じた。外国人旅客総合数(出国・入国含め)は91万9,510人(同+52.2%)と、10月として歴史的な水準となった。

訪日外客数と出国日本人数(2015年10月まで)



(出所) 一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

(2) 訪日外客数トレンド

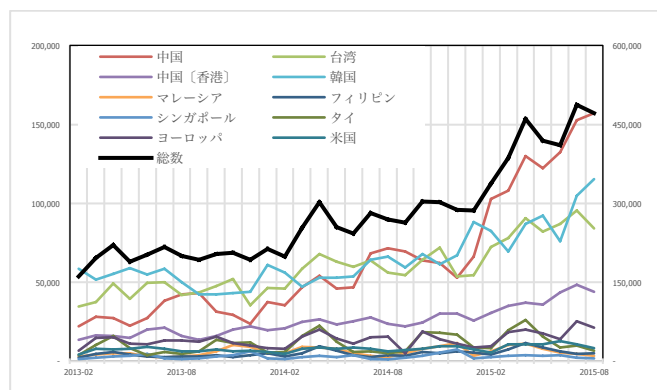
訪日外客数を地域別にみると、8月は中国(香港を除く)が

らの入国者数が 15 万 7,246 人(前年同月比+120.3%)と最も多かった。次いで、韓国が 11 万 5,351 人(同+73.9%)、台湾が 8 万 4,270 人(同+49.7%)、中国(香港)が 4 万 4,095 人(同+85.3%)となった。中国と韓国からの訪日外客数は 2 カ月連続で歴史的な水準となった。

他のアジア各国からの入国者数は、タイから 6,841 人(同+37.9%)。フィリピンからは 5,072 人(同+25.9%)、マレーシアからは 3,751 人(同+26.0%)、シンガポールからは 1,920 人(同+62.0%)となった。

他地域を見ると、ヨーロッパからは 2 万 1,250 人(同+35.7%)、11 カ月連続のプラスになった。米国からは 8,271 人(同+29.7%)と 12 カ月連続のプラスであった。

地域別訪日外客数(2015 年 8 月まで：人、右軸：総数、左軸：各国)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

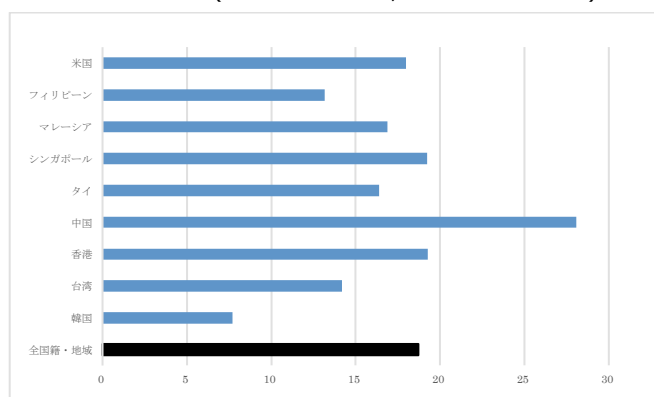
(3) 訪日来客支出(2015 年 7-9 月期)

訪日外国人の平均支出額(全国平均)を見れば、2015 年 7-9 月期に日本を訪れた外国人による平均消費額は 18 万 7,165 円となり、前年同期比+18.3%増加した。うち、中国(香港を除く)の平均支出額は 28 万 788 円(同+18.8%)で、訪日外客者の中では最大であった。

関空への入国者数が多い他の国々について見ると、支出額が大きいのは、中国(香港)19 万 2,545 円(同+30.0%)、シンガポールで 19 万 2,320 円(同+52.4%)、米国 17 万 9,682 円(同-1.2%)であった。その他、マレーシア 16 万 8,645 円(同+30.0%)、タイ 16 万 3,961 円(同

18.1%)、台湾 14 万 2,005 円(同+10.5%)、フィリピンは 13 万 1,591 円(同+26.8%)であった。韓国は 7 万 7,048 円(同+4.8%)であったが、これは滞在日数が短いためである。

訪日外客支出額(2015 年 7-9 月期,全国平均：単位万円)



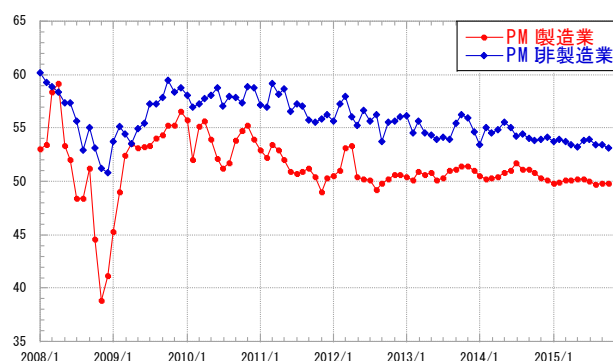
(出所) 観光庁「訪日外国人の消費動向」

【中国景気モニター】

(1) センチメント

10 月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は 49.8 となり、前月から横ばいであるが、3 カ月連続で 50 を下回っている。一方で、非製造業購買担当者景況指数 (PMI) は 53.1 となり、依然として 50 を上回っているが、前月から-0.3 ポイント下落しており、中国市場は下方圧力が続いている。

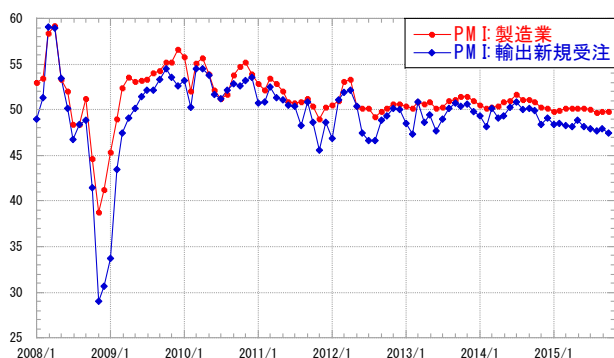
中国非製造業購買担当者景況指数(2015 年 10 月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

製造業のうち、生産指数は52.2となり、前月から-0.1ポイント下落した。2カ月ぶりの悪化である。新規受注指数は50.3となり、同+0.1ポイント上昇し、2カ月連続のプラス。また、輸出新規受注指数は47.4となり、同-0.5ポイント下落した。2カ月ぶりの悪化である。雇用指数は47.8となり、同-0.1ポイント下落した。

中国製造業購買担当者景況指数(2015年10月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

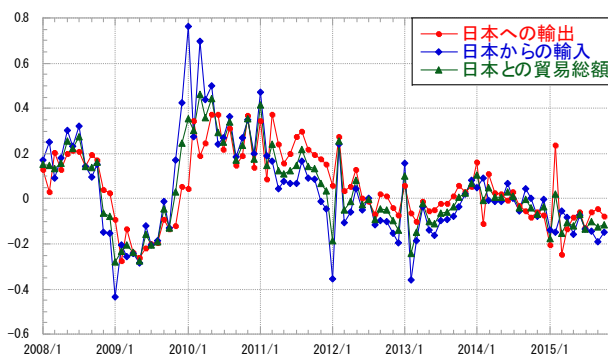
(2) 貿易動向

10月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-7.0%と4カ月連続のマイナス。減少幅は前月(同-3.8%)より拡大した。輸入額は同-19.0%(速報値)と内需の低迷を反映し12カ月連続のマイナス。

うち、日本への輸出額は同-7.7%と8カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-15.0%と12カ月連続のマイナスとなった。

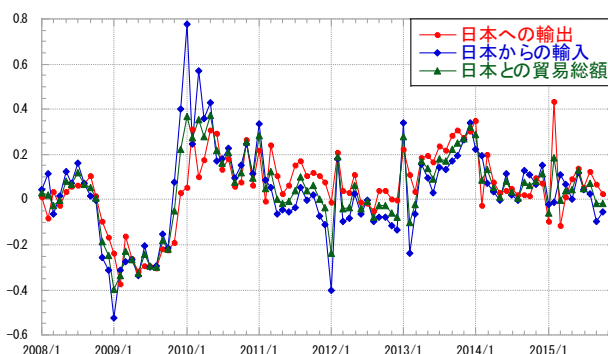
円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+2.6%となり、7カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同-5.5%、2カ月連続のマイナスとなった。

日本との貿易 (前年同月比:ドル・ベース) (2015年10月まで：%)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易 (前年同月比:円ベース) (2015年10月まで：%)



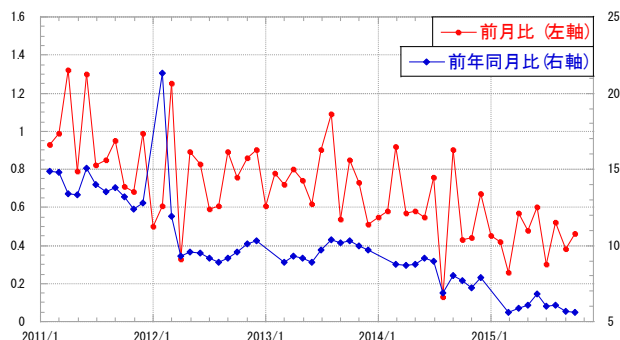
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

10月の工業生産は前月比+0.46%となり、前月から+0.08%ポイント上昇した。一方で、前年同月比は+5.6%となり、伸びは前月から-0.1%ポイント下落し、3カ月連続の減速である。

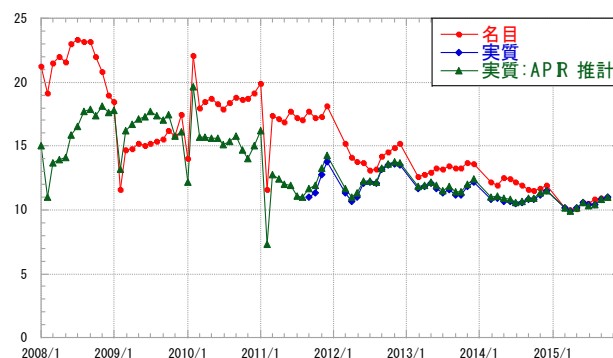
産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+12.1%)、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+11.7%)、医薬製造業(同+10.0%)、化学原料・製品製造業(同+9.5%)等が高い伸びを示す一方で、通用設備製造業(同+1.7%)、鉄道・輸送機器製造業(同+0.7%)等は比較的低調な伸びにとどまり、電力・熱力生産・供給業(同-1.4%)はマイナスとなった。注目すべき自動車製造業は+7.3%となり、伸びは前月から+4.6%ポイント上昇した。

工業生産指数(2015年10月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

社会消費品小売総額 (2015年10月まで：%)



(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

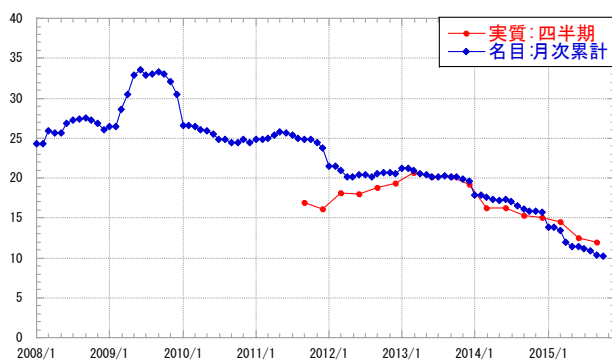
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-10 月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.2%、伸びは 4 カ月連続の低下となった(1-9 月期:+10.3%)。2014 年後半以降急激な減速が続き、2000 年12月(+9.7%)以来の低水準となった。

産業別にみれば、第 1 次産業は同+28.1%、1-9 月期(同+27.4%)より+0.7%ポイント増加。第 2 次産業は同+8.0%、1-9 月期(同+8.0%)から横ばい。第 3 次産業同+11.0%(1-9 月期:+11.2%)、4 カ月連続の減速である。

固定資産投資 (2015年10月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

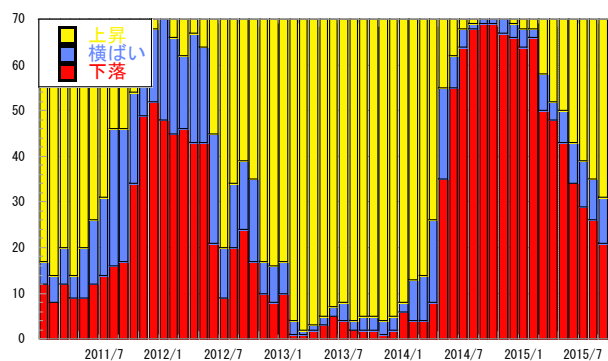
(5) 消費

10 月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.0%、3 カ月連続で幾分か加速しているが、昨年通年の伸び(同+12.0%)を依然下回っている。

(6) 不動産市場

不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要 70 都市のうち、10 月は 33 都市で前月から下落した。27 都市で同上昇、10 都市で横ばいとなった。下落した都市の数は 8 カ月ぶりの上昇となった。地域別に見ると、1 級・2 級都市はやや回復している一方で、3 級・4 級都市では住宅需要が依然弱く、不動産の市況は楽観視できない。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年10月まで：都市数)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 林万平・木下祐輔・James Brady

Tel. 06-6485-7695,

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	14/10M	14/11M	14/12M	15/1M	15/2M	15/3M	15/4M	15/5M	15/6M	15/7M	15/8M	15/9M	15/10M
景況													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	45.9	43.2	48.2	47.4	52.3	54.1	55.0	53.4	53.6	51.2	50.4	50.8	49.5
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、合計)	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)	42.3	39.5	44.2	43.9	48.4	50.9	53.2	53.6	50.4	50.8	48.8	47.0	48.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、合計)	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1
消費者心理・小売り													
[関西]消費者態度指数(原数値)	38.8	36.8	38.3	38.5	39.3	41.0	40.8	40.7	41.2	40.8	41.7	40.2	40.3
[関西]「暮らし向き(原数値)	36.6	34.8	36.0	35.8	37.1	38.5	38.2	37.7	38.9	38.7	40.4	38.6	38.4
[関西]「収入の増え方(原数値)	38.4	36.6	36.6	37.5	37.2	38.7	38.0	39.2	39.4	39.6	39.7	38.9	38.8
[関西]「雇用環境(原数値)	43.7	41.4	44.2	43.7	45.2	47.1	47.5	46.3	46.8	45.3	45.6	43.7	44.2
[関西]「耐久消費財の買い時判断(原数値)	36.3	34.4	36.4	36.8	37.6	39.6	39.6	39.4	39.8	39.5	41.1	39.7	39.8
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	39.1	38.4	39.3	39.5	40.9	41.7	41.5	41.4	41.7	40.3	41.7	40.6	41.5
[関西]大型小売店販売額(10億円)	308.1	335.1	419.0	334.9	289.7	327.0	310.9	324.8	315.4	337.8	315.4	297.9	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	1.0	1.6	0.7	0.6	1.1	-13.4	10.6	6.9	0.4	3.0	3.7	3.5	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,606.5	1,728.6	2,155.8	1,721.5	1,498.6	1,715.0	1,608.0	1,692.8	1,641.2	1,705.7	1,605.6	1,511.4	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	1.0	1.9	0.7	0.6	2.0	-12.3	9.5	6.3	0.6	3.2	2.6	2.6	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	10816	12192	11625	9605	9002	10832	9823	10416	14330	10210	12490	11697	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	-27.3	-12.5	-21.1	-15.0	-6.2	-3.0	-20.9	3.2	19.2	1.7	-2.1	-0.1	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	79171	78364	76416	67713	67552	69887	75617	71720	88118	78263	80255	77872	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	-12.3	-14.3	-14.7	-13.0	-3.1	0.7	0.4	5.8	16.3	7.4	8.8	2.6	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	73.4	81.6	75.6	79.3	69.9	70.4	73.6	70.5	71.8	71.7	79.5	69.3	67.9
[関西]マンション契約率(原数値)	74.1	80.9	73.0	70.9	67.1	72.7	74.2	75.2	74.8	75.1	79.4	67.9	68.6
[全国]マンション契約率(季節調整値)	65.2	79.0	70.3	69.5	74.5	75.2	74.5	72.1	75.4	73.6	76.6	72.3	79.7
[全国]マンション契約率(原数値)	63.3	78.4	71.0	74.9	74.5	79.6	75.5	71.1	78.7	83.7	74.3	66.0	68.8
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	150.4	88.9	97.2	70.6	84.4	112.4	263.4	127.6	200.4	134.6	103.2	128.6	123.0
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	8.5	30.3	-8.3	10.1	37.1	11.6	15.3	22.2	-0.8	-6.4	-19.0	7.7	-14.7
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	3,529.2	3,093.7	2,508.4	4,070.0	4,322.7	3,248.1	2,930.3	4,656.3	4,153.2	3,054.2	2,658.4	4,522.0	3,822.5
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	13.3	17.7	-6.0	25.2	22.5	5.0	16.8	14.4	-3.9	-6.0	-9.3	-2.9	-8.0
[関西]建設工事(総合、10億円)	556.5	587.8	609.6	600.8	584.1	573.7	467.9	467.5	487.0	500.3	507.4	521.0	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	3.0	3.2	2.4	1.4	-0.2	1.0	5.8	3.8	5.4	5.2	0.2	-2.4	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,522.6	4,714.6	4,834.6	4,611.0	4,510.3	4,520.2	3,632.1	3,549.4	3,727.0	3,934.5	4,195.9	4,402.8	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	-0.6	-1.4	-1.7	-1.3	-2.1	-0.7	3.4	3.3	2.5	5.2	4.1	1.6	UN
[関西]建設工事(公共工事、10億円)	2,098.8	2,247.4	2,344.3	2,188.1	2,127.4	2,140.9	1,445.8	1,383.9	1,454.4	1,550.8	1,717.3	1,865.7	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	5.1	3.5	3.7	3.6	0.2	0.8	4.9	6.4	3.1	4.4	0.8	-3.5	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	106.0	101.2	102.1	110.5	105.9	106.5	102.1	100.9	102.6	102.8	100.4	101.6	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.8	-4.5	0.9	8.2	-4.2	0.6	-4.1	-1.2	1.7	0.2	-2.3	1.2	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比)	5.2	-4.0	0.7	1.8	-0.7	0.3	-0.6	-5.1	-0.4	0.1	1.0	0.0	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比)	3.3	4.5	1.5	0.8	2.2	2.8	1.9	0.1	0.7	0.6	0.4	0.0	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	105.3	100.7	101.3	109.0	103.6	102.9	100.7	98.8	100.0	100.5	98.7	100.6	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	1.3	-4.4	0.6	7.6	-5.0	-0.7	-2.1	-1.9	1.2	0.5	-1.8	1.9	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	117.0	117.1	116.4	116.2	117.4	116.5	116.7	116.9	117.6	119.0	118.0	118.4	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.2	0.1	-0.6	-0.2	1.0	-0.8	0.2	0.2	0.6	1.2	-0.8	0.3	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	98.5	97.9	98.1	102.1	98.9	98.1	99.3	97.2	98.3	97.5	96.3	97.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	0.4	-0.6	0.2	4.1	-3.1	-0.8	1.2	-2.1	1.1	-0.8	-1.2	1.1	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	-0.6	-4.8	-0.1	-2.1	-2.9	-2.3	0.2	-3.2	1.8	-0.4	0.6	0.0	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比)	3.9	6.6	6.2	5.6	7.0	6.2	6.6	3.9	4.0	-0.8	2.1	0.0	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	98.0	97.3	97.1	102.4	97.9	97.3	97.9	96.0	96.6	96.2	95.5	96.8	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	0.1	-0.7	-0.2	5.5	-4.4	-0.6	0.6	-1.9	0.6	-0.4	-0.7	1.4	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	111.2	112.4	112.3	111.8	113.0	113.4	113.8	112.9	114.6	113.7	114.0	113.6	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-0.1	1.1	-0.1	-0.4	1.1	0.4	0.4	-0.8	1.5	-0.8	0.3	-0.4	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	1.3	2.0	2.4	0.8	0.5	0.0	-0.5	0.3	-1.5	0.7	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	1.1	1.8	2.6	0.6	0.3	0.2	-0.9	-0.1	-1.1	0.9	0.6	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	-0.1	-0.2	0.9	0.6	0.1	0.0	0.7	0.7	-2.5	0.9	0.4	UN	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	4.1	3.8	3.7	4.0	3.8	3.3	3.5	3.8	4.1	4.3	4.4	4.7	UN
[関西]完全失業率(原数値)	4.3	3.6	3.4	4.2	4.0	3.6	3.5	3.7	3.9	4.3	4.4	4.5	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.4	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4	3.4	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	1.60	1.60	1.68	1.72	1.58	1.69	1.71	1.69	1.70	1.72	1.73	1.8	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	1.69	1.69	1.77	1.77	1.63	1.72	1.77	1.78	1.78	1.83	1.85	1.9	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.02	1.04	1.06	1.06	1.06	1.06	1.08	1.10	1.10	1.11	1.13	1.2	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.10	1.12	1.14	1.14	1.15	1.15	1.17	1.19	1.19	1.21	1.23	1.2	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	2.3	-22.2	50.2	-76.0	-37.6	201.1	114.9	107.8	134.0	7.8	65.0	128.9	101.1
[関西]輸出(10億円)	1,425.2	1,322.6	1,500.7	1,304.8	1,242.4	1,459.2	1,382.7	1,264.3	1,383.4	1,374.6	1,299.4	1,386.8	1,398.0
[関西]輸出(前年同月比)	10.9	6.5	14.7	20.0	2.5	7.9	5.3	2.7	7.3	4.9	2.0	2.8	-1.9
[関西]輸入(10億円)	1,422.8	1,344.8	1,450.5	1,380.8	1,280.0	1,258.1	1,267.8	1,156.6	1,249.4	1,366.8	1,234.4	1,257.9	1,296.9
[関西]輸入(前年同月比)	1.8	-0.3	4.7	-10.9	-10.2	-14.1	-4.2	-8.1	-4.8	-0.5	0.4	-11.1	-8.9

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for APIR Monthly

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
2-Nov 中国製造業 PMI (10月)	3-Nov	4-Nov 消費動向調査(10月)	5-Nov	6-Nov
9-Nov 中国輸出入 (10月:速報値) 毎月勤労統計 (9月:速報値)	10-Nov 近畿貿易統計 (8月確報) 近畿貿易統計 (9月確速) 景気ウォッチャー調査 (10月) 近畿鉱工業生産指数 (9月速報)	11-Nov 中国工業生産(10月) 中国固定資産投資 (10月) 中国消費小売総額 (10月)	12-Nov	13-Nov 商業動態調査 (9月:確報値) 公共工事前払保証額 統計(10月) 全国鉱工業生産指数 (9月:確報値)
16-Nov	17-Nov 建設総合統計(9月) マンション契約率 (10月)	18-Nov	19-Nov 近畿貿易統計 (10月速報) 全国貿易統計 (10月:速報)	20-Nov
23-Nov	24-Nov 毎月勤労統計 (9月:確報値)	25-Nov 近畿鉱工業生産指数 (9月確報)	26-Nov 全国貿易統計 (10月:確速)	27-Nov 求人倍率(10月) 完全失業率(10月)
30-Nov 全国鉱工業生産指数 (10月:速報値) 商業動態調査 (10月:速報値) 新設住宅着工(10月)	1-Dec	2-Dec	3-Dec	4-Dec 毎月勤労統計 (10月:速報値)